

ご主人様…

この子は私の専属メイド
どんなことでも
真面目にこなし

いつも一生懸命私に
尽くしてくれる
少し無口で可愛い子だ

ご夕食の準備が
整いました…

うん
ありがとう

ねえ

後で私の部屋に
おいで

そんな彼女には
ある秘密がある…

私はご主人様のものです

いつも血を飲むこの子に
手を出してしまおう…

ご主人様の好きに
して欲しいです…

ふふ…

感じてるの？
上手く噛めてないね…

可愛らしい声をあげながら
健気に私の血を求める
姿を見ていると

この子を求める衝動を
抑えることなんてできない

あ…

んあ…
んあ…



次は
私の番ね

あうっ…

お互いを強く
求め合うひとときは
何よりも幸せ…

んっ…
あ

ご主人様…
もっと…

ふふ…
いいよ

だからもっともっと
私と一つになろう…？



ほら
しっかり味わってね？

こうして繋がっていると
この子が感じているのが
直に伝わってくる…

あ…

ん…ちゅう

あっ…ん
そこ…ダメ…

ちゅる

それがとても心地い…

ちゅう…

びくん

ご主人様の血

温かくて気持ちいいです…

んっ…

キッ

ちゅ

あっ
こらあ…

でもまだまだ
足りないよ

もっとあなたの全てを
感じさせて…?

ふふ

もっと気持ちよく
してあげるね?

ご主人様…

大好きです…











